

記事を読んで、問いに答えましょう。

- ①奈良公園にいるシカは国から何に指定されていますか。
()
- ②この記事が掲載された年には、奈良公園にいるシカが過去最多となりました。全部で何頭ですか。() 頭
- ③記事中の「奈良のシカ」の生息頭数のグラフで、2020年・2021年とシカが減少しているのは、主に何と関係すると考えられますか。
()
- ④奈良公園のシカによる観光客の事故の例を書きましょう。
()
- ⑤奈良公園のシカに対して、観光客はどのように接することが大切ですか。40字以上、60字以内で書きましょう（文字数には句読点も含みます）。

				5					10				15
				20					25				30
				35					40				45
				50					55				60

奈良のシカ 最多1465頭



奈良公園でシカに直接触れないよう注意を呼びかける関係者ら



観光客の回復に合わせるように、雄の角などによる人身事故件数も増えている。県によると

えた可能性も考えられるとい
う。

し、鹿せんべいをもらおうと人が多い場所にシカが出てくるようになった結果、計測頭数が増

けが多発 訪日客に注意喚起

て、子ジカが例年より多かったことを挙げる。新型コロナウィルス禍で減った観光客数が回復

21年度を境に右肩上がりとなっており、24年度は159件。うち外国人は111件と、23年度の約2倍に増えた。写真撮影のために過剰に触れたり、鹿せんべいをじらして与えたりすることが事故につながっている。

県や関係団体は8月下旬、雄の気性が荒くなる発情期を前に、日本語、英語、中国語対応の「マナーブック」を奈良公園で観光客に配布した。拡声器でシカに直接触れないよう呼びかけると、立ち止まって注意を聞き、受け取った冊子をめくる観光客もいた。

21年度を境に右肩上がりとなっており、24年度は159件。うち外国人は111件と、23年度の約2倍に増えた。写真撮影のために過剰に触れたり、鹿せんべいをじらして与えたりするこ

21年度を境に右肩上がりとなっており、24年度は159件。うち外国人は11件、3年度

--	--	--	--

100

20

35

50

1000

16

25	
40	
55	

[illegible]

[illegible]

Journal Pre-proof

100

30
45
60

記事を読んで、問いに答えましょう。

- ①奈良公園にいるシカは国から何に指定されていますか。
((国の) 天然記念物)
- ②この記事が掲載された年には、奈良公園にいるシカが過去最多となりました。全部で何頭ですか。 (1465) 頭
- ③記事中の「奈良のシカ」の生息頭数のグラフで、2020年・2021年とシカが減少しているのは、主に何と関係すると考えられますか。
(例) 新型コロナウイルス禍で観光客が減り、えさが少なくなったこと。
- ④奈良公園のシカによる観光客の事故の例を書きましょう。
(例) 雄の角などによる人身事故
- ⑤奈良公園のシカに対して、観光客はどのように接することが大切です。40字以上、60字以内で書きましょう（文字数には句読点も含みます）。
(例)
・シカに直接触れたり、鹿せんべいをじらして与えたりせず、野生動物であることをふまえたマナーを守る必要があるだろう。(56字)
・配布されたマナーブックをよく読んで、シカの生息地に人が入っていくという気持ちでシカを見守っていくことが大切だろう。(57字) など

奈良のシカ 最多1465頭



奈良公園でシカに直接触れないよう注意を呼びかける関係者ら
＝8月、奈良市



奈良公園（奈良市）にいる国の天然記念物「奈良のシカ」の生息頭数が4年連続で増加し、今年は過去最多の1465頭となったことが3日、保護団体「奈良の鹿愛護会」の調査で分かった。好物の鹿せんべいを求めて寄ってくる様子は訪日観光客にも人気だが、シカによるけがも多発。共生のため県などが多言語で注意を呼びかけている。

愛護会は7月15、16日に調査を実施した。内訳は雄315頭、雌816頭、子シカ334頭。合計で昨年より140頭多かった。立ち入り禁止区域などを除く調査エリア内で、目視で数えた。同じ方法での調査は1953年から実施。これまでの最多は2019年の1388頭だった。20年、21年と減少し、その後は増加が続く。

愛護会は過去最多の理由とし、

けが多発 訪日客に注意喚起

て、子シカが例年より多かったことを挙げる。新型コロナウイルス禍で減った観光客数が回復

し、鹿せんべいをもらおうと入が多い場所にシカが出てくるようになった結果、計測頭数が増えた可能性も考えられるという。

観光客の回復に合わせるように、雄の角などによる人身事故件数も増えている。県によると

21年度を境に右肩上がりとなっており、24年度は159件。うち外国人は111件と、23年度の約2倍に増えた。写真撮影のために過剰に触れたり、鹿せんべいをじらして与えたりすることが事故につながっている。

県や関係団体は8月下旬、雄の気性が荒くなる発情期を前に、日本語、英語、中国語対応の「マナーブック」を奈良公園で観光客に配布した。拡声器でシカに直接触れないよう呼びかけると、立ち止まって注意を聞き、受け取った冊子をめくる観光客もいた。

愛護会の石川周事課長(47)は「奈良公園のシカは穏やかで人慣れしているので錯覚しうくなるが、野生動物だ。生息地に人が入っていくという気持ちでシカを見守ってほしい」と話した。